



www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目 1-16 tel. 088-822-5231
発行●2017年9月25日 発行者●近森正康 / 事務局●寺田文彦

≡ Vol. 375 10
社会医療法人近森会

話題の治療 カクテル注射について	衣笠清人	2
精神科 50周年に寄せて第1回	田村雅一	3
看護師特定行為	岩井千代美	5
心エコー維新の会 in 志国高知	中岡洋子	5
CHNS 誓いのセレモニー	西本清香	7
日本脊椎関節炎学会第27回学術集会	公文義雄	10

目次

近森オルソリハビリテーション病院

もう10年、まだ10年

近森オルソリハビリテーション病院 院長 鄭 明守

当院は、2007年10月に整形外科単科のリハビリテーション病院として開院しました。今年の10月で10周年を迎えます。

整形外科の急性期医療を引き継いで患者さんを全人的に把握し、安心して入院生活がおくれ、早期の社会復帰を目指した医療が提供できるよう日々の診療に取り組んでまいりました。

開院時は一般病棟44床、回復期病棟56床で運営を開始しましたが、医

療情勢の変化にも柔軟に対応し、現在は一般病床14床、地域包括ケア病床30床、回復期病棟56床での診療を行い、様々な疾患、患者さんにリハビリテーション医療を提供しています。

2016年1月には近森リハビリテーション病院跡への改築移転により、念願であった個室を備えたことで、さらに多くの患者さんのニーズに応えることが可能となりました。また、入院だけでなく外来診療の充実もはかり、

日々60名前後の診療を行なっております。

しかし、10年経ってなおハード、ソフトとも不十分であり、引き続きERをはじめとした近森病院各科との連携を密にして、患者さんが安心してリハビリテーションに専念できる、環境の構築を目指していききたいと思います。

てい あきもり





近森病院整形外科
統括部長 衣笠 清人

カクテル注射について

THA（人工股関節全置換術）やTKA（人工膝関節全置換術）などの術後疼痛管理は頭を悩ませるところであります。以前は硬膜外ブロックがよく用いられていました。

最近数年はエコーガイド下の坐骨神経ブロック、大腿神経ブロックなどがエコーの精度が格段に上がったために利用されるのが主流になっていました。しかしこれは除痛が効けば効くほど運動まで

抑制してしまうので、翌朝まで足関節の自動運動ができないときもよくあり、主治医は腓骨神経麻痺が起きているのではないかと常に不安な気持ちを味わっていました。そこへ最近このカクテル注射の情報を入手しました。これはステロイド・局麻薬・モルヒネを体重に応じて配合量を調節し生食と混合して総量50mlのカクテル！を作り、手術の最後に患部の周辺多数箇所へ少しずつ局注しておくというモノです。

浦添総合病院の城田副院長がよく効きますよと教えてくださったので、初めは

半信半疑ではあったのですが、今年になって使い始めてみるとなんと！メチャメチャ効きます。手術当日の痛みは激減し、翌日もほとんどの症例で自制内の痛みしかありません。

以来THA、TKAや術後疼痛が強そうなケースではいつもこれを使用しています。今後人工骨頭置換術に対しても導入を考えているところであります。ちなみに今年のAAOS（アメリカ整形外科学会）の人工関節外科医に対するアンケートでは60%以上のドクターが第1選択として用いていたそうです。

きぬがさ きよと

10月の歳時記

ガーベラ

SRL 検査室
臨床検査技師 藤田 奈々

ガーベラは春と秋、年に2回花を咲かせる多年草です。色の種類が豊富な花で、ブーケの花材として人気が高く、目にする機会も多いのではないのでしょうか。

ガーベラの代表的な花言葉は「希望」と「常に前進」です。プレゼントにぴったりな花ですが、自分自身が元気を出したいときに飾ってみるのも、良いかもしれませんね。

ふじた なな



私の趣味

チームワーク

近森病院7階A病棟看護師 濱中 琢満

私は身体を動かすことが好きでたくさんの趣味を持っています。例えば、旅行、温泉、スポーツ、映画鑑賞など多々あります。なかでも、サッカーをすることが私の趣味です。

17年前から始めて、現在も社会人チームに所属し続けています。今まで、怪我や勝敗において苦しく悔しい経験もたくさんしてきましたが、サッカーを通じて体力、精神力、協調性を鍛えることができたと自負しています。また、スポーツ



には人と人を繋げるという素晴らしさがあります。

私は、今までいくつものチームに所属していましたが、各チームにはそれぞれの特徴があります。私の経験上、すべてのチームにおいて共通していえることは個人で補えない力を仲間が集まり助け合う“チームワーク”があるということです。これは医療の現場においても多職種が協働するという点では同じことかといえると思います。

サッカーを通じて、たくさんの人とつながり、たくさんのことを学んできました。この経験を活かし、これからも看護師として仕事と趣味を両立出来たらと思っています。

はまなか たくま





「患者さんに寄り添うケア」をチームで

近森リハビリテーション病院
シニア看護師長 中村 里江

当院に入院してこられる患者さんは急性期病院で命の危機を脱したあと脳卒中の後遺症のために「身の回りのことができなくなった」「口から食べられなくなった」「言葉が分からなくなった」など、それまでにない「できない自分」「失った自分」「混乱した自分」に遭遇しておられます。

そのような患者さんも、数カ月の間当院で過ごされ、やがては住み慣れたところ、生活の場に退院されていきます。患者さんが「住み慣れたところで安心してその人らしく生活ができるよ

うに」をモットーに、私たち看護部は、患者さんがどのような生活を送りたいか、その思いを引き出し、スタッフ皆で共有して患者さんと一緒にそれを目指しています。

患者さんが当院で過ごされる時間は、患者さんがこれからの人生を考える大切な時間です。私たちは患者さんが自分らしさを取り戻し、生活を取り戻し、生きる希望を取り戻していくことを支えながらその過程に寄り添う存在でありたいと願っています。

私は教育担当看護師長として、そのようなケアを提供できるスタッフの育成を担う立場にあります。といっても

私が教えているわけではありません。当院にはそのようなケアを患者さんの生活の流れの中で自然に提供できるスタッフがたくさんいます。私はそんなスタッフのケアから学び、それを現場にフィードバックします。日常的に自然にできる関わりだからこそ、患者さんにとっての意味を言葉にしてチームで共有することが大事になります。

私たちの行なうケアは患者さんご家族にとって「よかった」と感じられるものでなければなりません。そのことを忘れずに、これからも努力していきます。

なかむら りえ

精神科 50周年に寄せて 第1回



縁あって、近森病院へと呼び寄せられ

近森病院精神科 田村 雅一

精神科医を探しているが、どうだろうか」というお声掛けからです。そして当時の野村好直事務長をご紹介いただき、一度見学に行きました。

率直な感想は「これは大変な状態だ」です。当時の先生方には申し訳ないのですが、とても良好な診療状況にない。職員に対する目が行き届いておらず、医師と他のスタッフが対立し、統率が取れていないように見えたのです。そして私一人の力では力不足だと感じました。

そこで、私は前の病院で共に働いたことがあった梶原和歌（前統括看護部長）さんに声をかけました。すると梶原さんは田内・安田・井上さんの3人の看護師さんを紹介してくださり、野村事務長と一緒に受け入れて貰えないかと相談をしたのです。近森病院としたら、医師は欲しいが看護師は充足しており、断られてもおかしくない状況にもかかわらず、快諾を受け、とても

嬉しかったのを憶えています。そしてこのことが近森病院精神科医療の向上へ大きく繋がったと感じています。

※

余談ですが、私が近森病院に就職しようと決めた要因の一つとして、当時の吉村総婦長とのお縁があります。私の父は兵庫県明石市で、外科医として開業していました。吉村総婦長はなんと父の診療所で働いていたことがあり、私とも一つ屋根の下で暮らしたことがあったのです。「これも何かの縁」で、私は近森病院へと呼び寄せられました。

たむら まさかず

1968年精神科開設

精神科は2018年4月に50周年を迎えます。私は医局で一番の古株であり、私の知っている歴史を話しておこうと思います。

精神科の草創期は1968年4月に45床が開設されたことに始まります。当初は長尾朋典先生が脳外科と兼任されていましたが、翌年後藤弘先生の就任で本格的に始まりました。

1981年近森病院へ就職

私は遅れること13年、1981年5月に近森病院に着任しました。契機となったのは、当時勤務していた病院と近森病院の両方で講師をされていた臨床心理士の羽下先生から「近森病院が

クリニカルパス大会

上部 EMR・上部 ESD の

クリニカルパス大会

日時：10月30日（月）

18時～19時30分

会場：近森病院管理棟3階会議室

ハッスル研修医

まずは基本



初期研修医 小松 洵也

外国の血が混じっていると、九州・沖縄の生まれですかとよくいわれますが、生まれも育ちも高知です。入職当初はわからないことばかりで一寸先は闇でしたが、半年経ち三寸くらいは見えてきた気がします。

千利休が説いた茶道の教えに「守・破・離」というものがありますが、基本の型の会得もなしに自分の個性やスタイルを作ることは単なる「型無し」になってしまうというものです。大門未知子や藍沢耕作に世間の目は行きがちですが、初期研修の二年間は基本を徹底的に習得することが自分の将来への近道だと思っています。

また学生時代は弾丸旅行に勤しんでおりました。一泊二日でタイに行ったり、意味もなく日本の東西南北の先端に足を運びました。日本は47都道府県全てを訪れましたが、どこに行っても毎回高知に帰ってくるたびに少しホッとしていました。

今はなかなか県外に出る機会もなくなりましたが、自分のベースである高知県にじっくり腰を据えてハッスルしていきます！

こまつ じゅんや

献血キャンペーン

ありがとうございました。

9月14日(木)に献血キャンペーンを開催しました。今回は80名の方にご協力いただきました。

ありがとうございました。次回は来年2月に予定しています。

乞！熱烈応援

ケアの充実を目指して 満足度アップのために

近森病院 5階 B病棟
看護師長 島崎 真弓



本館5階B病棟は循環器を中心とした内系疾患患者と心臓血管外科の患者さんが主に入院されます。高齢化に伴い疾病構造の複雑化、重症化、生活様式が多様化など、患者さん一人一人の生活に応じた対応が必要となります。早期に元の生活に戻れるよう必要な時に必要なケアが提供できるような病棟を目指してスタッフと頑張っていきたいと思えます。 しまさき まゆみ

障害者福祉サービスセンター
ウェーブ主任 沼 慶子



ウェーブに勤めて来年の1月で10年になります。素敵な思い出も辛い思い出もありますがここまで継続できたのは一緒に働く上司や仲間、家族のおかげであると思っています。

これからはウェーブを利用している皆様と支援している職員にも「ここに来て良かった」と思ってもらえるよう私自身も楽しみながら根強く取り組んでいきたいと思えます。ぬま けいこ

受賞報告

人工血管を用いた F-P bypass failure に対して EVT を施行した1例

近森病院循環器内科
西村 祐希



この度、CVIT(日本心血管インターベンション治療学会)の中国四国地方会で若手賞を受賞することができまし

た。久しぶりの学会発表で、すごく緊張し、マイクの電源を入れ忘れて発表を開始するといったハプニングもありましたが何とかやりきることができました。学会を通して多くのことを勉強でき、また、今回の学会に向けて今井先生、關先生が手厚く指導してくださり、循環器内科の先生方に温かく見守られながら賞までとらせていただき、とても感謝しています。ありがとうございました。

来年の全国学会ではまずマイクの電源を確認してから発表するよう気をつけたいと思えます。

にしむら ゆうき

看護師特定行為



低血糖の対応を始めます。

看護師特定行為研修修了者

近森病院北館4階看護師主任 岩井 千代美

看護師特定行為の区分の一つ「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」は手順書に基づいてインスリン投与量の調整を行い、血糖コントロールを行なう行為です。当院にはこの特定行為の研修を修了した看護師が5名います。

糖尿病において血糖コントロールが治療の主となり、低血糖を起こさない血糖コントロールが重要ですが、低血糖が起きた際には早急に適切な対応が必要とされます。そこで低血糖時の対応に研修修了看護師が介入・アセスメントし、早期に安全な血糖値への回復ができるようにフローチャートに基

づいて低血糖の対応を行なうことにしました。

フローチャートには院内低血糖マニュアルを取り入れ、低血糖が起こった際には私たち研修修了者に連絡が入り、院内マニュアルに沿って対応すると同時に血糖値や患者状態の確認、アセスメントを行い適切な対応を病棟看護師と一緒に考えていきます。その後、安全な血糖値への回復を確認し、主治医または専門医に報告をします。

手順書に基づくインスリン投与量の調整が出来ることを視野に入れ、まずは研修修了

看護師の介入による低血糖の原因やインスリン量のアセスメントを充実させるとともに、専門医への橋渡しの役割も担っていきたいと考えています。

いわい ちよみ



心エコー維新の会 in 志国 高知開催 2017年8月19、20日

心エコー図世界の「維新」を目指し

近森病院循環器内科
部長 中岡 洋子

2017年8月19、20日の両日、「心エコー維新の会 in 志国 高知」を開催いたしました。この会は、全国で心エコー図を専門にしている医師主導の夏合宿で、文字通り心エコー図世界の「維新」を目指し、2016年に発足しました。

2016年は山口県萩で、吉田松陰先生の志を感じながら勉強しました。

2017年は、「幕末維新といえば四国・高知」ということで、近森病院と徳島大学、愛媛大学で、心エコー図を専門にしている医師が協力し、開催しました。

北海道から九州まで、全国の医師、臨床検査技師あわせて60名が参加しました。懇親会、また2日目の観光及びランチョンセミナーも大いに盛り上がり、充実した2日間になりました。

なかおか ようこ



緩和ケアイベントの開催

11月7日、「癒しをあなたに」と題し、緩和ケアイベントを開催します。緩和ケアは「がん」の方に向けて使われることが多いですが、「がん」でない方にも体や心の辛さを和らげるものとして必要なものです。

いのちのスープの試飲、マッサージ、頭皮ケアなど準備していますので、どうぞお気軽にお越しください。

癒しをあなたに

日時 11月7日(火) 9:30～14:00
場所 近森病院 外来センター3階
エレベーター前～渡り廊下



Edwards TAVI insight program に参加して



近森病院放射線科
部長 宮崎 延裕

しい状況をシミュレートし、安全性・信頼性を検証していました。研究開発リーダーが「我々は医療者ではないので、直接治療は

Edwards Lifescience 社主催の TAVI 見学プログラム（アメリカ西海岸 2泊 5日！）に入江副院長と共に参加しました。

1日目はアーバインにある本社見学でした。最近リニューアルされた新社屋は広大で、さすがアメリカの大企業と感服しました。研究開発部門や工場も見学できました。TAVI 弁の耐久テストは、留置された患者さんに問題が起きないように、想定されるあらゆる厳



できないが、我々が開発したデバイスを通してあなた方が素晴らしい治療成績を上げてくれていることが、何よりも嬉しい」と仰られていたのが心に響きました。

2日目はサンディエゴにある Scripps Medical Center の見学でした。



TAVI が年間 300 例（開胸手術の 2 倍！）という high volume center です。早朝からのカンファレンス、TAVI 1 例を見学しました。TAVI は日本では全身麻酔が主流ですが、この施設では鎮静下・局所麻酔で行なっており、手術時間・入院期間短縮に繋がっていました。実際の手技は、我々と比べると若干不安を感じるほどにダイナミックでした。

人生初の海外施設見学は、不案内な英語、国内のご高名な先生方との同行（東京ベイ・浦安市川医療センター 渡辺弘之先生、小倉記念病院 白井伸一先生・新井善雄先生）と、出発前は一人場違いな印象でしたが、皆様気さくで、楽しく貴重な経験を得ることができました。 みやざき のぶひろ

ワイン講座 ● 56

ぶどう品種を知り、個性を探る
その 36 ポルトガル篇

ポルトガルワインの歴史

ポルトガルワインの歴史は古く、紀元前 5 世紀にはフェニキア人によってぶどう栽培が始められました。8 世紀から 11 世紀まではイスラムの支配により一時停滞しますが、キリスト教徒が領土を回復してから再びワイン造りが盛んになりました。

12 世紀に隣国スペインから独立してからもワイン造りにおいてはその歴史を共有し、伝統的な栽培法や醸造法をもとに近代的醸造技術を採り入れることによりポルトガル固有のワインを造りあげてきました。

また、ポルトガルは歴史的に日本との繋がりが深く、16 世紀の半ばにヨーロッパから初めて日本を訪れたポルトガル人によって、キリスト教や鉄砲とともにワインが伝えられました。戦国時代の武将

も珍重したと言われていました。

1986 年の EC（現在の EU）加盟を果たし、ポルトガルワインの市場は国内からヨーロッパそして世界に拡大されました。ここからポルトガルのワイン造りは激変します。もとより有史以来の長いワイン造りの伝統を持ち、イタリアの様に国土のほとんど全ての場所でぶどうが栽培され、個性あふれるワインを生産しているポルトガルに最新の醸造技術を学んだ新世代の造り手達が、次々と革新的なワインを生み出すに至りました。この状況はワイン消費国にも知れるようになり、最初は安くて美味しいワインの生産国として知られ、2000 年以降は世界の銘醸ワインに勝るとも劣らない素晴らしいワインを生み出す産地として著名な評論家に認められるようになりました。

主なワイン生産地はドウロ、ヴィニョ・ヴェルデ、ダン、そして先にご紹介したマデイラの 4 つの地域です。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

第 5 回日本 CNS 看護学会

「超高齢多死社会を支える高度実践看護—専門看護師の真価を問う—」をテーマに第 5 回日本 CNS 看護学会を開催します。11 月 7 日より演題登録が始まります。CNS はじめ高度実践看護に関心がある方々の参加および演題登録をお待ちしております。

第5回 日本CNS看護学会

超高齢多死社会を支える高度実践看護

専門看護師の真価を問う

大会長 岡本 充子 社会医療法人会 社会医療法人会 社会医療法人会 社会医療法人会 社会医療法人会

2018.6.2SAT

大会ホームページ <http://jacns2018.umin.jp>

会場 大田区産業プラザP10

〒155-0001 大田区東山 1-10-10 大田区産業プラザP10 大田区産業プラザP10

E-mail: jacns2018@yamanashi.ac.jp TEL: 055-6131-0005 FAX: 055-6141-2025

第3回看護のこころをつなぐ — CHNS 誓いのセレモニー —

近森病院附属看護学校
専任教員 西本 清香



誓いのセレモニーも今年度で早3回目を迎えました。セレモニー開始から初めて3学年揃いこの式典を迎えられたことにひとしおの喜びを感じております。

この式典は、看護実習が始まる前に看護師としての自覚と更なる学習意欲の向上を目的としています。そして、臨地の場で困難なことに出会ったとしても仲間とともに乗り越えて欲しいという願いから、1期生より企画・運営は学生たちが行ってきました。

今年も、先輩たちより助言を受けながら、クラスで話し合い試行錯誤しながら作り上げてまいりました。今年度

のコンセプトは「思いやりの心」です。友達や両親、患者さんなど、すべての人々に対する思いやりの心を式典の中に表現しました。将来、この思いやりの心を忘れずに優しく患者さんやご家族に関わるのできる看護師になって欲しいと切に願います。

10月より始まる初めての基礎看護学実習では、ドキドキしながら臨地の場に向かうと思います。臨床の皆様ご指導のほどよろしく願います。

今回のセレモニーの開催に当たり、近森会グループの職員の皆様、実習でお世話になる施設の看護部長や職員の皆様、お忙しいなかご臨席くださいましてありがとうございました。

にしもと きよか

個性溢れるセレモニーに

近森病院附属看護学校
1年 正木 芳美

私たち3期生は「個性」溢れるセレモニーにするため、会場づくりから演出、進行、写真撮影など全て企画し、日々の学習の学びから自分たちの目指す看護師像を思い描き、クラス全員で考え練習を行ってきました。

細かい動作も入念にチェックし、指摘し合い、時には頭を抱えることもありましたが、しかしクラス全員で協力して作り上げることができ、達成感を得ることができたと同時に、これから始まる実習に向け、看護師としての責任の重さをますます自覚しました。

入学式でのバレーンリリースの意味は、「立派な看護師になって羽ばたいてほしい」という願いが込められています。その想いに応えるため、実習でさらなる知識と技術を習得し、患者さんの心に寄り添うことのできる看護の提供、かかわる全ての人に感謝の気持ちを忘れず、仲間とともに看護の道を歩んでいくことを誓いました。

誓いのセレモニーにお越しく下さいました皆様、ありがとうございました。

まさき よしみ



ザ・RINSHO

管理部 危機管理室



トラブル＆クレーム対応！ ～職員の間談窓口～

管理部危機管理室室長
兼渉外部長 上村 和宏

危機管理室は、病棟や診察室、受付窓口などで起こる犯罪を含む各種トラブルやクレームに対応しているほか、診察などに立会ってトラブルの未然防止に努めています。

患者さんやご家族は様々な問題を抱

え、医療や処遇に対する受け取り方も千差万別ですので、ご意見やご要望が苦情へと進展する場合があります。誠心誠意対応していても、誤解を生む場合もありますので、そうした場合には懇切丁寧に説明することが大切です。しかし、いわれなき苦情や拘束時間の長いエンドレス的な苦情には、毅然とした姿勢で臨む必要があります。患者さんに寄り添う医療

サービスを提供するためには、平穏な医療環境を保つことが必要不可欠となるからです。

その他、プライベートを含めた諸々の職員相談にも対応していますので、困った時には躊躇せず利用して下さい。

また南海トラフ大地震対策や防火防災訓練などの災害対応も所管しています。

かみむら かずひろ

ニューフェイス ①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



梅下 仁

うめした じん ①消化器
内科医師②須崎市③高知大
学医学部④1年ぶりに帰っ
て参りました。名古屋で得
たものを生かして、これま
で以上に皆さんに貢献でき
るよう励んでいきます。

掲載のご案内 精神科看護師 3代メンター座談会

日本精神科看護協会情報誌『ナーシング・スター』10月号（1日発行）700号
記念特集「日精看 つなげた歴史 つながる未来」内のコーナー「精神科看護師 3
代メンター座談会」に掲載
予定です。

▶左から、末安民生氏（日
本精神科看護協会会長）、
梶原和歌（近森会顧問）、
仲野栄氏（日本精神科看
護協会業務執行理事）、西
岡由江（ウェーブ施設長）



おめでとう

人の動き 敬称略

図書室便り 2017年8月受入分

- 救急・集中治療における臨床倫理／前田正一（他編）
- ヘイスティングス・センター ガイドライン生命維持治療と終末期ケアに関する方針決定／Nancy Berlinger, Bruce（他著）、前田正一（監訳）
- 子宮頸癌取扱い規約病理編第4版 2017年7月／日本産科婦人科学会（他編）
- 子宮体癌取扱い規約病理編第4版 2017年7月／日本産科婦人科学会（他編）

2017年8月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	18,901人
新入院患者数	1,007人
退院患者数	965人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	14.34日
地域医療支援病院紹介率	64.34%
地域医療支援病院逆紹介率	147.62%
救急車搬入件数	598件
うち入院件数	296件
手術件数	474件
うち手術室実施	328件
うち全身麻酔件数	190件

● **2017年8月 県外出張件数** ●
件数 27件 延べ人数 40人

編集室通信

久しぶりに真っ赤に咲いている彼岸花を見た。「何だか不気味」という人もいれば、「あの妖艶さが好き」、「癒される」という人もいる。田んぼの畦道に彼岸花が多いのは、その毒でモグラや野ネズミを防除するためだけではなく、飢饉に備えて植えたという説もあり、危険を覚悟してまで口にしなければならなかった昔の苦勞が偲べれます。

由似

不測の事態にもドッシリと

自分の幅を広く持ちたい

「長い長い障害物競争」を走っているような感じ。長谷川先生は、脳神経外科医の手術をこう喩える。高いカベを登ったり狭い穴をくぐったり。緊急的に行なう場合が比較的多い脳神経外科の手術ではあっても、「原則は予想の範囲で進んでいくもの。それでも、不測の事態に慌てないよう、自分の幅をいかに広く持てるようにするか」が、日ごろからの関心事だという。ドッシリ構えて緊急時にも慌てないのが鉄則だ。

さらに、病棟では患者さんのいちばん近くでいつも見守ってくれているナースの皆さんの意見をよく聴いて動くようにするのも、日常で気にかけていることだという。ポツリポツリと、じっくりくる言葉を探しながら、まず「脳神経外科医としての自身の心得」を、こんな風に話してくれた。

球技よりも柔道

仕事ばかりしていたという印象の強い医師の父親を見て育ったせいか、進路を決める際、「医師がいちばん身近な存在」だった。

ただし、いまから思えば、「母親は医者になったらこんないいことがあると、きっとボクに刷り込んでいたでしょうね」と、母親による刷り込みの自覚も持っているという。

小学校中学校と、当時の流行で野球をやった。が、「残念ながら球技には向いていない(笑)」と観念し、高校からは柔道部に所属。スポーツは「やっ



▲台風一過、ロードバイクで気持ちよく！

て当然のもの」という考えだったから「球技でなければ、柔道」。地元、岐阜での高校時代、「柔道の成績はからっきしダメ」だったが、大学時代は「たまたまチームメイトに強い人がいたため」に、西日本の医学部の大会、西医体で優勝。さらに、西医体と東医体の上位チームがでる全医体の大会では6年生のとき、優勝も経験した。

近森病院なら研修で力がつく！

この大学時代の柔道部が近森病院への就職に繋がることになる。2歳上の柔道部の先輩が、研修医として近森病院に赴任した。

長谷川先生は研修病院を決める際に、近森病院でその先輩の姿を発見。そのとき、「わずか2歳しか離れていない、ほんの最近まで自分とあまり変わらなかった筈の先輩が……、しっかり診察されている……。頼もしいその姿を見て、近森病院なら力がつく、とピンときた(笑)」ためだった。

脳神経外科医を務めてきたこれまでの8年を振り返ると、「手足を動かしかラダも動かしかという仕事の仕方が性に合っていると思える」そうだ。いま、選んだ道に迷いはないのだろう。

家では「イクメン」の心で

家に帰ると、この6月に生まれたばかりの三番目ちゃんの上に4歳児と2歳児。賑やかさの極みのような子どもたちの楽園が、羽を休める巣である。

妻には、「パパがいると、子ども達はすごく賑やか。ふだんはここまでウルサクない！」と、嬉しそうに笑われるらしい。それを、いかにも満足そうに目を細める長谷川先生。

たとえ時間の制約はあっても、心はイクメン(育児パパ)を地でいく子煩悩さを妻もきっと認めているのだろう。



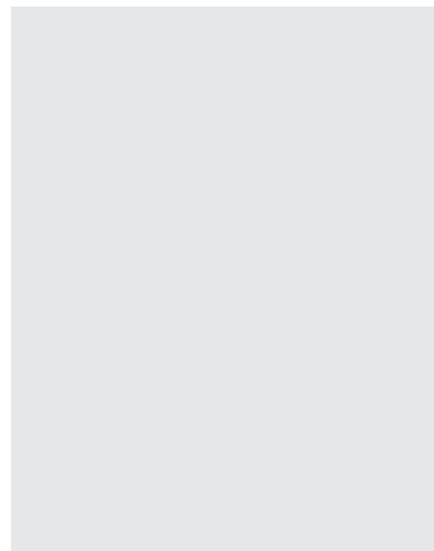
▲スルドイ眼差しは、手術室でのひとこま

分かりやすいやり甲斐

脳神経外科医というと「いかにもハードな日々」の印象が強い。現に、先生からも「昨日は11時間のオペでした」というような話がサラッと出る。でも先生は、「これが、自分にとっては、分かりやすいやり甲斐に繋がっているんでしょね」とも。若さと意欲は、体力の限界への挑戦をサラリとやり甲斐に変換するようで、きっと充実した毎日なのだろう。

あまり意識して運動はできていないそうだが、それでも時間が取れるときは「ロードバイクで遠出をしています」というのがいまの趣味だろうか。

でもやっぱり、時間があるなら、子ども達のそばにできるだけ居たいのが正直な気持ち。子ども達の「これ以上ないような賑やかな声」が最大、最上の癒しとなっている。



日本脊椎関節炎学会第 27 回学術集会

第 27 回学術集會会長

近森病院糖尿病・内分泌代謝内科

リウマチ・膠原病内科 部長 公文 義雄

この度、大変身に余る光栄であるが、上記を9月8、9日に高知市文化プラザ「かるぽーと」で開催させていただいた。

ところで皆さんは、「脊椎関節炎 (SpA)」をご存知だろうか。SpAは関節リウマチと類似の炎症性疾患群で、一部には指定難病である強直性脊椎炎 (AS) が含まれている。



関節リウマチは、ここ20年間で分子標的治療も進歩し治る時代になった。ASにおいても、診断、治療のガイドライン、治療の道筋が近年示され、この分ならASの進行を食い止められる日も近そうである。しかし、日常診療での問題は「早期診断と早期治療」であり、その点ASは理想にはまだ程遠い。この解決には診察医個々の診療技術の向上が必要であり、専門医と一般医～他科の医師との医療連携が必須である。

今回行われた学術集會では“SpA Renaissance”をメインテーマに、診療の基本に立ち戻った企画をさせていただいた。特別講演 (David Yu 先生) では「なぜ非薬物療法が必要か」をご講演いただき、リハビリテーションの



実技をご指導いただいた。また、「どう診察し、診断し、治療するか」など診療現場での工夫 (西本憲弘先生) をご講演いただき、ご出席いただいた多くの先生方からご好評をいただき、やっと肩の荷が降りた。

無事盛会裏に終えることができ、胸を撫で下ろしているところであるが、当院秘書の温かさ、「イベント力」には心から感謝を申し上げたい。

くもん よしたか

『漢方薬処方レクチャー

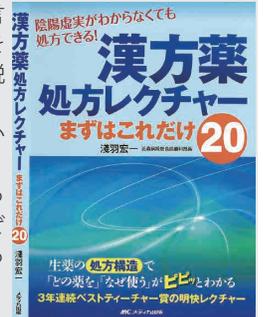
まずはこれだけ 20』

2017年9月25日刊

近森病院総合診療科 浅羽宏一医師による漢方薬の本が完成しました!

内容は、陰陽、虚実、寒熱、五臓などなど、漢方のことはくわしくわからなくても処方できる! 生薬の処方構造をもとに、現代の言葉で漢方処方をスッキリと解説しています。

今日の臨床から使ってみたくなる情報が入った内容です。ぜひ一度手に取ってみてください。



第 1 回近森会グループ学術集會の演題募集 ~ 10月20日まで

来年、2月10日(土)に、「第1回近森会グループ学術集會 2018」を開催します。「地域において患者さんに寄り添う医療サービスを提供する」をメインテーマとして、各部署でのいろいろな取り組み、研究を発表していただきたいと思っています。

近森会グループは病棟常駐型チーム医療を展開し、各職種の高い専門性を生かして、業務を分担して労働生産性を高めてきました。しかしながら、機能分化が進んでいるがゆえに相互の業務内容、とくに専門性の高い部分

第1回 近森会グループ 学術集會 2018

日時 2月10日(土) 13:10~17:40

■演題募集■

9月15日(金)~10月20日(金)



はよく分からない、といったことが起こっています。他職種、他部署のそれ

ぞれの取り組みを知ること、職員同士の連携に更なる深みが出ると思います。今回は病院だけでなく、看護学校、社会福祉法人、訪問看護からも発表を予定しています。

特別講演は、元尾道医師会長の片山壽先生にお願いしています。高齢化社会に対応する、地域連携のモデルとなる「尾道方式」と呼ばれる地域包括ケアシステムを構築された先生です。興味深いご講演になると思います。多くの職員の発表、参加を楽しみにしています。 副理事長 近森康